

【ユニリハ】全身の筋緊張制御を行うポジショニングからの 摂食嚥下リハビリテーション理論編×実技体感編

【長期療養生活 6 年、ADL 全介助の症例に、局所的ではなく、全身の筋緊張を一度に落とすポジショニングを行ったところ、拘縮が変化して端座位や自立、20 日後にお楽しみのゼリー食を用いた摂食嚥下訓練の介入に至った。】第 9 回摂食嚥下リハビリテーション学会へ口述発表する。

身体質量と重力を拮抗させた環境で行うポジショニングアプローチを行う事で、筋緊張が安定し、関節拘縮の変化と長時間持続する臨床研究が発表されました。低反撥マットレスを数枚重ねてポジショニングを行うこの環境を Rehabilitation & Engineering Design -R.E.D.-とし、2010 年より研究が開始されました。

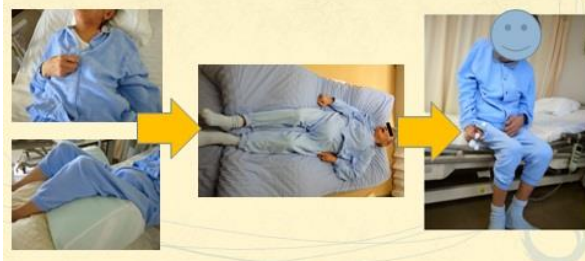
～摂食嚥下リハビリテーションの新たな視点と介入手段～

身体質量と重力を拮抗させた環境で行うポジショニングアプローチを行う事で身体にかかる重力が小さくなり、収縮の必然性がなくなる筋や腱は、柔軟性を取り戻し、神経や感覚入力と相互作用していきます。

変化した身体状況は、自律神経系の安定(副交感神経優位)や呼吸、循環へと波及し、過緊張、低緊張など異常筋緊張の安定に結びついていきます。長い年月をかけてもたらされた過緊張や関節拘縮の変化と循環器系の安定例は、これまでの臨床場面では見られなかった新しい発見と、今後の医療に大きく影響する事が示唆されました。

低反撥マットレスを身体質量の比重に合わせて積層する環境設定という単純性は、高い再現性と介入者要因に依存しない筋緊張制御となり、誰が介入しても同じ結果となります。このような現象、結果の蓄積により関節拘縮の概念をも確実に変える力を持っています。局所的ではなく全身的な筋緊張制御や過緊張の緩和が摂食嚥下機能に及ぼす影響を提案し、その技術論及び実技を学んでいただきます。

● 全身の筋緊張の低下→関節可動域変化→
端座位等姿勢の変化→舌骨上筋群、舌骨
下筋群の筋緊張が低下→嚥下機能の変化



日時 2022年2月6日(日) 10:00～16:30

・会場 多摩平の森ふれあい館
(東京都日野市多摩平2-9)

参加費 15,000円(理論編のみ7000円)

申込URL <https://www.meducation.jp/seminar/detail.php?id=36978>

・お問い合わせ 日本ユニバーサル リハビリテーション協会

TEL 042-208-0102

URL <https://universalreha.com/>